

HP Service Health Reporter

ソフトウェアバージョン: 9.20

アップグレードガイド



目次

1	用語集.....	3
2	はじめに	4
2.1	並列アップグレード	4
2.2	同一システムアップグレード	4
3	並列アップグレードの一連の手順	5
4	同一システムアップグレードの一連の手順	6
5	SHR 9.10 システムからのデータのエクスポート	7
5.1	SHR 9.10 システムからデータをエクスポートするための詳細な手順.....	8
6	SHR 9.20 システムへのデータのインポート	11
6.1	SHR 9.20 システムにデータをインポートするための詳細な手順	11
7	インポートしたデータの検証	13
8	データの移行後.....	16
9	トラブルシューティング.....	17
9.1	データエクスポートのトラブルシューティング	17
9.2	データインポートのトラブルシューティング	17
9.3	アップグレードツールのトラブルシューティング	17
付録 A	付録 A – サポートされるコンテンツパックのリスト.....	19
付録 B	付録 B – 'migration.prp' ファイルの例	20
付録 C	付録 C – コンテンツパックマッピング	21
付録 D	付録 D – 制限事項.....	21

1 用語集

SHR のアップグレードで一般的に使用される用語を以下に示します。

用語	定義
移行パッケージ	これは各コンテンツパックに対応するアップグレードパッケージで、SHR 9.20 の一部としてバンドルされています。このパッケージは、%PMDB_HOME%/Packages'フォルダーにあります。
移行プロパティファイル (migration.prp)	アップグレードツールの入力として使用するファイル。コマンド行から 'upgradewrapper listcp' コマンドを実行すると、このファイルが生成されます。移行プロパティファイルには、コマンドが実行されたシステム (SHR 9.10 および SHR 9.20 ボックス) にインストールされているコンテンツパックのリストがあります。これは、%PMDB_HOME%/config フォルダーにあります。「移行プロパティファイル」の例は、「 付録 B - 'Migration.prp' ファイルの例 」で参照できます。
ルートドライブ	migration.prp ファイルでユーザーがキー Shr_data_migration.Drivepath に指定したドライブ (C:¥など)。これは、マップドライブになる場合もあります。
データのエクスポート	SHR アップグレードユーティリティを使用して、SHR 9.10 データをフォルダー 'shr_data_migration' にエクスポートすることです。このフォルダーは、「移行プロパティファイル」で提供されるルートドライブパスの下になります。
データのインポート	SHR アップグレードユーティリティを使用して、SHR 9.10 データをフォルダー 'shr_data_migration' から SHR 9.20 システムにインポートすることです。このフォルダーは、「移行プロパティファイル」で提供されるルートドライブパスの下になります。
'upgradewrapper' ユーティリティ	このツールは、SHR91_92_Upgrade_Binaries.zip の一部として使用でき、SHR 9.10 からデータをエクスポートしたり、SHR 9.20 にデータをインポートしたりできます。これは、コマンド行から起動できます。'upgradewrapper' コマンドには以下の引数があります。 <ol style="list-style-type: none"> listcp (SHR 9.10 および SHR 9.20 に移行プロパティファイルを生成します) export (SHR 9.10 データをエクスポートします) import (SHR 9.20 システムにインポートします)
メタデータのエクスポート/インポート	SHR 9.10 の一部のメタデータテーブル (dict_schedule、dict_pa_ds、dict_db_ds、dict_cmdb_ds、dict_sn_ds、dict_csv_ds、dsi_retention_profile、dict_pa_host_to_view) は CSV にエクスポートされてから SHR 9.20 の各辞書テーブルにインポートされます。
BIAR のエクスポート/インポート	SHR 9.10 システムのすべての BO アーティファクトは、BIAR アップグレードツールを使用して BIAR にバンドルされます。これは、SHR 9.10 で %PMDB_HOME%/bin/bair_export.bat を実行して起動します。BO アーティファクトは、%PMDB_HOME%/bin/biar_import.bat を実行して SHR 9.20 システムにインポートされます。
Exportdonelist.txt	このファイルには、エクスポートが正常に完了したすべてのコンテンツパックのリストがあります。このファイルは、%PMDB_HOME%/packages/upgrade_packages/の下に配置されます。
アップグレード事前チェック	アップグレード事前チェックでは、'%PMDB_HOME%/failed_to_transformed' および '%PMDB_HOME%/failed_to_load' フォルダーにあるファイルが再処理されます。

2 はじめに

SHR 9.20 では、サポートされるすべての設定済みコンテンツパックを対象として SHR 9.10 システムから SHR 9.20 にデータを移行できます。このドキュメントでは、データ移行手順について説明します。サポートされるコンテンツパックのリストについては、「[付録 A – サポートされるコンテンツパックのリスト](#)」を参照してください。

SHR 9.20 には、2 つのアップグレード方法があります。

- 並列アップグレード
- 同一システムアップグレード

2.1 並列アップグレード

並列アップグレードでは、SHR 9.10 がすでにインストールされているサーバーとは異なる新しいサーバーに SHR 9.20 がインストールされます。アップグレードの一部として、SHR 9.10 システムのデータが SHR 9.20 システムに移行されます。アップグレードおよび検証が完了したら、SHR 9.20 サーバーに切り替えて、SHR 9.10 サーバーを使用停止にできます。

2.2 同一システムアップグレード

同一システムアップグレードでは、まず SHR 9.10 データベースのデータをエクスポートしてから、SHR 9.10 のアンインストールと SHR 9.20 のインストールを行い、データをインポートして戻します。これには、SHR 9.10 のデータをエクスポートする外部マップドライブまたは追加ディスク領域が必要です。SHR 9.20 のインストールには、追加のマシンは必要ありません。

3 並列アップグレードの一連の手順

並列アップグレードでは、2 つのマシン (SHR 9.10 がインストールされているマシンと SHR 9.20 をインストールする新しいサーバー) が必要になります。以下の並列アップグレードの手順を参照してください。

1. SHR 9.10 システムが稼働中であることを確認します。
2. SHR 9.10 システムのデータをエクスポートします。外部マップドライブまたは同一マシンを使用して、エクスポートデータをダンプします。この外部マップドライブが SHR 9.10 マシンの 'migration.prp' ファイルのルートドライブとして指定されていることを確認します。
[「SHR 9.10 システムからのデータのエクスポート」](#) セクションの手順を実行します。
3. 必要なコンテンツパックとともに SHR 9.20 を新しく準備したサーバーにインストールします。
4. SHR 9.10 データをマップドライブから SHR 9.20 にインポートします。この外部マップドライブが SHR 9.20 マシンの 'migration.prp' ファイルのルートドライブとして指定されていることを確認します。
[「SHR 9.20 システムへのデータのインポート」](#) セクションの手順を実行します。
5. アップグレードツールで生成されたレポートを使用して、SHR 9.20 にインポートしたデータを検証します。
[「インポートしたデータの検証」](#) セクションの手順を実行します。
6. SHR 9.20 ボックスで Collection Service および Timer Service を開始する前に [「データの移行後」](#) セクションの手順を実行します。

4 同一システムアップグレードの一連の手順

同一システムアップグレードでは、SHR 9.10 のデータをエクスポートする外部マップドライブまたは追加ディスク領域が必要です。SHR 9.20 のインストールには、追加のマシンは必要ありません。以下の同一システムアップグレードの手順を参照してください。

1. SHR 9.10 システムが稼働中であることを確認します。
2. SHR 9.10 システムのデータをエクスポートします。外部マップドライブを使用するか、より多くのディスク領域を準備して、エクスポートデータをダンプします。この外部マップドライブが SHR 9.10 マシンの'migration.prp'ファイルのルートドライブとして指定されていることを確認します。
「[SHR 9.10 システムからのデータのエクスポート](#)」セクションの手順を実行します。
3. SHR 9.10 をアンインストールします。詳細な手順については、インストールガイドを参照してください。
4. SHR 9.10 固有のフォルダーを手動で削除し (アンインストール時に削除していない場合)、マシンを再起動します。アンインストールが完了したかどうかを確認するには、以下の手順を検証します。詳細については、SHR 9.10 のインストールおよび設定ガイドも参照してください。
 - a. [プログラムの追加と削除] から Sybase IQ 15.2、SAP Business Objects XI 3.1 および MySQL Server 5.1 がアンインストールされていることを確認します。
 - b. Program Files フォルダーから Business Objects サブフォルダーが削除されていることを確認します。
 - c. Documents and Settings¥Administrator フォルダーから .businessobjects フォルダーが削除されていることを確認します。
 - d. .iq ファイルを含むフォルダーがシステムに存在していないことを確認します。
 - e. Windows スタートメニューから、[Sybase IQ 15.2]、[SAP Business Objects XI 3.1] および [MySQL Server 5.1]、[HP ソフトウェア] -> [SH Reporter] が使用できないことを確認します。
5. システムを再起動して、必要なコンテンツパックとともに SHR 9.20 を同一マシンにインストールします。
6. データをマップドライブから SHR 9.20 にインポートします。この外部マップドライブが SHR 9.20 マシンの'migration.prp'ファイルのルートドライブとして指定されていることを確認します。「[SHR 9.20 システムへのデータのインポート](#)」セクションの強調表示されている手順を実行します。
7. アップグレードツールで生成されたレポートを使用して、SHR 9.20 にインポートしたデータを検証します。「[インポートしたデータの検証](#)」セクションの手順を実行します。
8. SHR 9.20 システムで Collection Service および Timer Service を開始する前に「[データの移行後](#)」セクションの手順を実行します。

5 SHR 9.10 システムからのデータのエクスポート

SHR 9.10 を SHR 9.20 にアップグレードするには、まず SHR 9.10 からデータをエクスポートする必要があります。データをエクスポートするワークフローを以下に示します。詳細な手順は、さらに後に記載されています。



5.1 SHR 9.10 システムからデータをエクスポートするための詳細な手順

以下の手順を記載されている順序で実行する必要があります。

1. 移行パッケージを抽出して DB Logger Service を再起動する

- SHR 9.20 のパッケージフォルダーの SHR91_92_Upgrade_Binaries.zip (抽出されたバイナリフォルダー) を SHR 9.10 %PMDB_HOME%フォルダーにコピーします。
- DBlogger Service を再起動します。これは、アップグレード用のログも使用できるようにするために必要です。

2. "HP SH Reporter Collection Service"および"HP SH Reporter Timer Service"を停止します。

3. 移行プロパティファイルを生成する

- コマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。
upgradewrapper listcp
 - 上記のコマンドにより、以下の場所に migration.prp ファイルが生成されます。
%PMDB_HOME%/config
 - migration.prp ファイルには、インストールされているコンテンツパック [コンテンツパック名] と shr_data_migration フォルダーのドライブパスのリストがあります。
 - 「[付録 B – 'Migration.prp'ファイルの例](#)」の migration.prp の例を参照してください。
 - SHR 9.10 および SHR 9.20 のコンテンツパックマッピングのリストについては、「[付録 C – コンテンツパックマッピング](#)」を参照してください。

4. 移行プロパティファイルを更新する

- migration.prp の以下のプロパティを編集します。
 - 正しいルートドライブ名 (C:¥や E:¥など) を使用してプロパティ 'shr_data_migration.Drivepath'を更新する必要があります。マップドライブも設定できます。
 - 移行するコンテンツパックは、更新して'true'に設定する必要があります。
たとえば、Core および CoreActiveDirectory を移行するには、これらを以下のように true に設定します。

```
Core=true;  
CoreActiveDirectory=true;
```

- ラッパーツールにより、指定したドライブに'shr_data_migration'フォルダーが作成されます。
- 生成されたすべてのファイルが'shr_data_migration'フォルダーに保存されます。

「[付録 B – 'Migration.prp'ファイルの例](#)」の migration.prp の例を参照してください。

5. アップグレード事前チェックコマンドを実行する

- コマンド行で以下のコマンドを使用して、アップグレード事前チェックツールを実行します。
Upgradeprecheck
- 'Upgradeprecheck' ツールでは、以下のタスクが実行されます。
 - すべての failed_to_transformed/failed_to_load/failed_to_stage ファイルが再処理されます。
 - ステージテーブルのデータがデータウェアハウステーブルに移動したかどうかをチェックされます。
 - ステージテーブルにデータが存在する場合、ツールにより、各データウェアハウステーブルに対してローダーコマンドが実行されます。
 - shr_data_migration フォルダーにある precheck フォルダーに概要ファイルが生成されます。
Precheck フォルダーには以下が含まれます。
 - ✓ failed_to_transform/failed_to_load/failed_to_stage フォルダーの再処理ファイルの概要
 - ✓ コンテンツパック単位のステージテーブルの詳細
 - 'shr_data_migration' に UpgradeSummary_ExportMode.html ファイルが生成されます。
UpgradeSummary_ExportMode.html には、以下が含まれます。
 - ✓ PrecheckSummary.html:
以下の再処理済みファイルの概要が表示されます。
 - a. %PMDB_HOME%/stage/collection/failed_to_load
 - b. %PMDB_HOME%/stage/collection/failed_to_stage folders
 - c. %PMDB_HOME%/collect/failed_to_transformed
 - ✓ StageTablesSummary.html:
ステージからデータウェアハウステーブルにロードされていないレコードの情報が表示されます。

6. 'Upgradewrapper' ツールを使用してデータをエクスポートする

- コマンド行を使用して以下のコマンドを実行し、データのエクスポートを開始します。
upgradewrapper export
- 'upgradewrapper' ツールでは、以下のタスクが実行されます。
 - %PMDB_HOME%/config/migration.prp ファイルが読み取られて、選択したコンテンツツパック
(Core=true のように値が'true'に設定されたコンテンツツパック) のデータのエクスポートが開始されます。
 - データは以下にエクスポートされます。

- <ルートドライブ>/shr_data_migration/upgrade_pack/<コンテンツパック名>/csv.zip (C:¥shr_data_migration¥upgrade_pack¥Core¥csv.zip など)ツールにより、コンテンツパックデータ移行検証ツールが実行されて、テーブル単位の最小 (ta_period)、最大 (ta_period)、合計レコード数を含むコンテンツパック単位の CSV ファイルが shr_data_migration/PrePostCheck に生成されます。
- ラッパーツールにより、エクスポートされたコンテンツパック名のエントリーが以下の場所にある Exportdonelist.txt に作成されます。
%PMDB_HOME%/packages/Upgrade_packages/

7. メタデータをエクスポートする

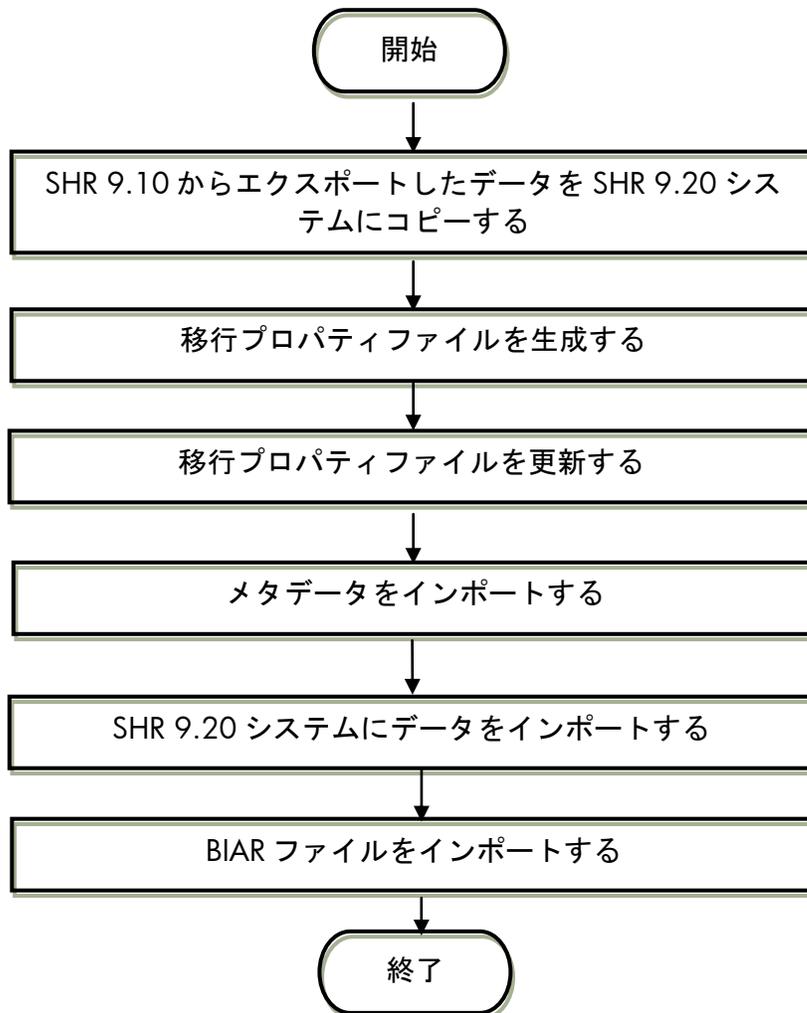
- メタデータを移行するには、%PMDB_HOME%/bin/metaData_Export.bat にあるメタデータアップグレードツールを実行します。
 - メタデータツールにより、以下の辞書テーブルのデータが csv ファイルにエクスポートされます。
 - ✓ dict_schedule
 - ✓ dict_pa_ds
 - ✓ dict_db_ds
 - ✓ dict_cmdb_ds
 - ✓ dict_sn_ds
 - ✓ dict_csv_ds
 - ✓ dsi_retention_profile
 - ✓ dict_pa_host_to_view
2. メタデータツールでは、以下のファイルもエクスポートされます。
- ✓ Retention_Comparsion.html:
 - SHR 9.10 DWH テーブルのデフォルトの保持期間と最新の SHR 9.10 DWH テーブルの保持期間の比較情報が表示されます。
 - ✓ Viewmapping.xml:
 - この XML は、SHR 9.20 ホストをドメインテーブルにロードするときの入力になります。
 - この XML は、コンテンツパックごとの特定のビューのホストで構成されています。
 - ✓ CompareConfigFile.html:
 - 9.10 のデフォルト設定と config.prp の最新の 9.10 の設定を比較した概要が表示されます。

8. BIAR ファイルをエクスポートする

- BO アーティファクトをエクスポートするには、%PMDB_HOME%/bin/bair_Export.bat にある BO アップグレードツールを実行します。
 - BO アップグレードツールにより、SHR 9.10 BO リポジトリにあるすべての SHR 9.10 BO アーティファクトが bair ファイル (BO_upgrade_backup.biar) にエクスポートされます。

6 SHR 9.20 システムへのデータのインポート

データをインポートするワークフローを以下に示します。詳細な手順は、さらに後に記載されています。



6.1 SHR 9.20 システムにデータをインポートするための詳細な手順

前提条件:コンテンツパックをインストールする前に、SHR 9.20 をインストールして"HP SH Reporter Collection Service"および"HP SH Reporter Timer Service"を無効にします。必要なすべてのコンテンツパックをインストールします。

1. **SHR 9.10 システムの `shr_data_migraton` フォルダを SHR 9.20 システムのルートドライブ (C:¥など) にコピーする**
2. **移行プロパティファイルを生成する**
 - コマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。
`upgradewrapper listcp`

- 上記のコマンドにより、以下の場所に migration.prp ファイルが生成されます。
%PMDB_HOME%/config
- migration.prp ファイルには、インストールされているコンテンツパック [コンテンツパック名] と shr_data_migration フォルダのドライブパスのリストがあります。
- SHR 9.10 および SHR 9.20 のコンテンツパックマッピングのリストについては、「[付録 C – コンテンツパックマッピング](#)」を参照してください。

3. 移行プロパティファイルを更新する

- migration.prp の以下のプロパティを編集します。
 - 正しいドライブ名 (C:¥や E:¥など) を使用してプロパティ 'shr_data_migration' を更新する必要があります。
 - コンテンツパックを移行する場合、'contentpack name' プロパティを更新して 'true' に設定する必要があります。たとえば、Core および EUMCore を移行するには、これらを以下のように true に設定します。

```
Core=true;  
EUMCore=true;
```

- ラッパーツールにより、指定したドライブに 'shr_data_migration' フォルダが作成されます。
- 生成されたすべてのファイルが 'shr_data_migration' フォルダに保存されます。

「[付録 B – 'Migration.prp' ファイルの例](#)」の migration.prp の例を参照してください。

4. SHR 9.20 システムにデータをインポートする

注: エクスポートする 9.10 データの範囲が 2 年を超えている場合、ユーザーはファイル %PMDB_HOME%/bin/upgrade.bat を編集して 731 を該当の値 (年数 × 366) に置き換える必要があります。たとえば、3 年間のデータの場合、値は $3 \times 366 = 1098$ になります。

- コマンドプロンプトを開き、下記のコマンドを実行して、9.20 データウェアハウステーブルにデータをインポートします。

```
upgradewrapper import
```

 - このツールにより、migration.prp ファイルが読み取られて、選択したコンテンツパック (移行の値が true に設定されたコンテンツパック) のデータがインポートされます。
 - ラッパーツールにより、移行されたコンテンツパック名のエントリが %PMDB_HOME%/packages/Upgrade_packages/にある Importdonelist.txt に作成されます。

5. メタデータをインポートする

- メタデータをインポートするには、%PMDB_HOME%/bin/metaData_Import.bat にあるメタデータアップグレードツールを実行します。

- メタデータツールにより、以下の辞書テーブルのデータが SHR 9.20 の Postgres DB にインポートされます。

- ✓ dict_pa_ds
- ✓ dict_db_ds
- ✓ dict_cmdb_ds
- ✓ dict_sn_ds
- ✓ dict_csv_ds
- ✓ dict_pa_host_to_domain
- ✓ pa_last_poll
- ✓ dict_schedule

注: 以下の SHR 9.10 テーブルは CSV として保持され、SHR 9.20 にはインポートされません。

- ✓ dsi_retention_profile

6. BIAR ファイルをインポートする

- Central Configuration Manager ([スタート] > [プログラム] > [BusinessObjects XI 3.1] > [BusinessObjects Enterprise] > [Central Configuration Manager]) のサービス (Apache Tomcat 5.5.20 および Server Intelligence Agent) を再起動します。
- BO アーティファクトをインポートするには、%PMDB_HOME%/bin/biar_import.bat にある BO アップグレードツールを実行します。
 - BO ユーザーのみがインポートされます。

注: 'BO_upgrade_backup.biar'は、BO biar インポートツール (インポートウィザード) を使用して手動でインポートできます。SHR 9.20 ではモデルが変更されているため、SHR 9.10 で作成したカスタムレポートは機能しません。レポートは、SHR 9.20 での参照や再作業を目的として別の SHR 9.10 システムにインポートできます。

7 インポートしたデータの検証

9.20 データウェアハウステーブルにデータをロードしたら、検証ツールで 9.10 および 9.20 の行数を使用してデータ移行を検証し、html 形式で検証結果を生成します。

以下の html ファイルは、'shr_data_migration'フォルダーにあります。

1. UpgradeSummary_CompareMode.html

上記の html には、以下のタイプの html ファイルへのリンクがあります。

- ✓ コンテンツパックの概要の html
- ✓ レートおよび集計テーブルの html
- ✓ ディメンションテーブルの html
- ✓ コンテンツパックの概要、レート、集計、およびディメンションテーブルの SHR 9.10 CSV ファイルの場所。

上記のすべての html ファイルには以下があります。

- SHR 9.10 のテーブル単位の行数
- SHR 9.20 のテーブル単位の行数
 - 注: SHR 9.20 の行数は、SHR 9.10 の行数の倍数になります。この倍数は、SHR 9.20 で定義されているシフト数によって決まります。たとえば、SHR 9.20 で 2 つのシフトが定義されている場合、SHR 9.20 の合計数は、SHR 9.10 の行数×2 になります。
- SHR 9.10 および SHR 9.20 の最小 ta_period
 - 注: 'daily' テーブルの最小 'ta_period' は、対応する 'monthly' テーブルの最小 'ta_period' です。ディメンションテーブルの「最小 ta_period」および「最大 ta_period」は、列 'creation_date' から取得されます。
- SHR 9.10 および SHR 9.20 の最大 ta_period
- 「結果」の色が緑色の場合、データは正常に移行されています。
- 色が赤色の場合、移行したデータに問題がある可能性があります。

注: 以下の表にリストされているコンテンツパックのモデルは変更されているため、移行に問題がなくても結果が「赤色」になる場合があります。SHR 9.20 でのモデルの変更が原因で SHR 9.10 と SHR 9.20 で数が一致しなくなる各種コンテンツパックの SHR 9.20 テーブルのリストを以下の表に示します。

コンテンツパック	テーブル名 (SHR 9.20)
System Management	K_SM_CPU K_SM_FileSystem K_SM_PhysicalDisk K_SM_NetInterface SR_SM_CPU SH_SM_CPU SD_SM_CPU SR_SM_FILESYSTEM SH_SM_FILESYSTEM SD_SM_FILESYSTEM SR_SM_NETINTERFACE SH_SM_NETINTERFACE SD_SM_NETINTERFACE SR_SM_DISK SH_SM_DISK SD_SM_DISK
Virtualization	K_CI_VM K_VMWare_ResourcePool K_VMWare_Cluster

	SR_VMWare_ResPool SD_VMWare_ResPool SR_VI_VM SH_VI_VM SD_VI_VM SR_VMWare_VM SH_VMWare_VM SD_VMWare_VM
Operations Manager (OM)	K_OM_Management_Server K_OM_Node K_OM_NodeGroup_Node K_OM_Severity K_OM_Service K_OM_Application K_OM_Operator SR_OM_Application SH_OM_Application SR_OM_Node SH_OM_Node SR_OM_Service SH_OM_Service SR_OM_Operator SH_OM_Operator SR_OM_MessageGroup SH_OM_MessageGroup
Exchange	K_Exchange_MBDatabase K_Exchange_SrcDestAddr K_Exchange_Mailbox SR_Ex_PFPPerf SH_Ex_PFPPerf SD_Ex_PFPPerf
Active Directory	K_AD_Site K_AD_Forest K_AD_Domain
BPM	K_BPM_Server SR_BPM_Transaction SH_BPM_Transaction SD_BPM_Transaction SR_BPM_Errors SH_BPM_Errors SD_BPM_Errors
Core	K_Group

	K_CI_Bridge
--	-------------

注: 上記のリストにテーブルはないが、数の不一致の問題がある場合、移行に問題がある可能性があるため、さらに調査する必要があります。トラブルシューティング手順を実行して根本原因を見つけます。

2. UpgradeSummary_ExportMode.html

この HTML には、CSV のパスが表示されます。テーブルごとに CSV があり、移行前の SHR 9.10 の行数を確認できます。

3. UpgradeSummary_ImportModel.html

この HTML には、CSV のパスが表示されます。テーブルごとに CSV があり、移行後の SHR 9.20 の行数を確認できます。

8 データの移行後

1. メタデータの移行を実行していることを確認します。
2. BSM デプロイメントの場合、アップグレードした SHR 9.20 ビューを BSM にデプロイしてください。
3. これらのコンテンツ (BPM、RUM、OMi、ServiceHealth) のいずれかがインストールされていて、アップグレードプロセスを開始してから 6 時間以上経過している場合、適切な値 (時間単位) を使用して 'dbcollector.maxHistory' を更新します。他のすべてのコンテンツでは、アップグレードプロセスを開始してから 48 時間以上経過している場合、%PMDDB_HOME%/data にある config.prp で適切な値 (時間単位) を使用して 'collector.maxHistory' を更新します。
4. "HP SH Reporter Collection Service" および "HP SH Reporter Timer Service" を開始します。
5. PA ホストの収集は、'pa_last_poll' テーブルの「最後の収集のタイムスタンプ」から再開します。
6. Hyper V GLOBAL および Solaris ZONES のデータインスタンスは 9.10 から正常に移行されますが、9.20 の新しい収集ではこれらのインスタンスは取り込まれません。
7. 以下のしきい値は SHR 9.20 とは異なります。以下にその値を示します。
 - 実行キューのしきい値は、9.20 では 5 ですが、9.10 では 3 です。
 - ページアウトのしきい値は、9.20 では 10 ですが、9.10 では 5 です。これらの変更により、SHR 9.20 レポートで表示される例外の数は SHR 9.10 とは若干異なります。

"System Performance"コンテンツに属する以下のようなレポートは、上記の変更による影響を受けます。

1. SM Executive Summary
2. SM System Exception by Group

9 トラブルシューティング

9.1 データエクスポートのトラブルシューティング

%PMDB_HOME%/log にあるログを使用して、データエクスポート手順をトラブルシューティングできます。

- cpDataMigrate.log → csv ファイルへのデータエクスポート
- upgradeExprotImport.log → UpgradeWrapper
- PostUpgradeCheck.log → 検証ツール (rowCount#)
- bOUpgrade.log → BOE ユーザーの移行
- metaDataMigrate.log → メタデータの dict_*テーブルの移行
- Export.log → データのコンテンツパック単位のエクスポートに関する詳細

9.2 データインポートのトラブルシューティング

%PMDB_HOME%/log にあるログを使用して、データインポート手順をトラブルシューティングできます。

- loader.log → csv から 9.20 データウェアハウステーブルへのデータのロード
- upgradeExprotImport.log → UpgradeWrapper
- PostUpgradeCheck.log → 検証ツール (rowCount#)
- cachedRegistry.log → Virtualization コンテンツパックの移行のみ
- bOUpgrade.log → BOE ユーザーの移行
- metaDataMigrate.log → メタデータの dict_*テーブルの移行
- Import.log → データのコンテンツパック単位のインポートに関する詳細

9.3 アップグレードツールのトラブルシューティング

アップグレードツールがハングした場合や応答しない場合、以下のトラブルシューティング手順を実行します。

- 以下にある 'exportdonelist.txt' ファイルを確認します。
 - %PMDB_HOME%¥packages¥Upgrade_Packages フォルダー
- 諸事情によりアップグレードが中止された場合、アップグレードを再開する前に以下を実行する必要があります。

SHR 9.20 アップグレードガイド

- shr_data_migration/upgrade_pack/<コンテンツパック名>を削除します。
'exportDoneList.txt'にエントリーのないコンテンツパックは、%PMDB_HOME%/packages/Upgrade_Packages にあります。
- コマンド行から 'upgradewrapper export' コマンドを実行し、エクスポートを再開します。

付録 A – サポートされるコンテンツパックのリスト

SHR 9.10 から SHR 9.20 へのアップグレードでサポートされるコンテンツパックのリストを以下に示します。

1. Core
2. Core_BSM
3. System_Management
4. Virtualization コンテンツパック
5. Database_Oracle
6. Database_MSSQL
7. BPM
8. Real_User_Monitor
9. OMi
10. OM
11. Active_Directory
12. Exchange_Server
13. Appserver_Weblogic
14. Appserver_Websphere
15. Application_Server
16. MSAppCore
17. EUMCore

付録 B – 'migration.prp'ファイルの例

```
# Fri Jul 06 15:46:17 GMT+05:30 2012 migration file
# 1. Select Drive where you want to export Data E.g.shr_data_migration.DrivePath=E:¥ **only
the drive name, not the folder name**
# 2. Set true/false for the content packs among list of content pack ready for migration
#inorder to select it for migration assign true for each content pack
#e.g : suppose you want to do migration for Virtualization related content packs make it as
```

```
CoreVirtualization=true
Shr_data_migration.Drivepath=E:¥
```

```
# if you want to migrate "Core" content pack set Core=true, or false otherwise.
```

```
Core=true
```

```
# Do the same for all the other supported content packs listed below, setting each to true or false
depending on whether you want to migrate the corresponding data.
```

```
CoreDatabaseMSSQL=true
CoreDatabaseOracle=true
CoreExchangeServer=true
CoreSystemManagement=true
CoreVirtualization=true
CoreVirtualization=true
OperationsManager=true
```

付録 C – コンテンツパックマッピング

SHR 9.10 および SHR 9.20 のコンテンツパックのマッピングを以下に示します。この表には、migration.prp ファイルにあるコンテンツ名の migration.prp キーもリストされています。

SHR 9.10 コンテンツ名	SHR 9.20 コンテンツ名	Migration.prp キー
BPM	Synthetic Transaction Monitoring	BPM
Core	Default	Core
Active_Directory	Microsoft ActiveDirectory	CoreActiveDirectory
Weblogic、Websphere (すべてのディメンションと一部のファクトテーブル)	Default	CoreApplicationServer
Appserver_Weblogic	Oracle WebLogic Server	CoreAppServerWebLogic
Appserver_WebSphere	IBM WebSphere Application Server	CoreAppServerWebSphere
Database_MSSQL	Microsoft SQL Server	CoreDatabaseMSSQL
Database_Oracle	Oracle	CoreDatabaseOracle
Exchange_Server	Microsoft Exchange Server	CoreExchangeServer
Core_BSM	Health and Key Performance Indicators	CoreServiceHealth
System_Management	System Performance	CoreSystemManagement
Virtual_Env_Management_PA	Virtual Environment Performance	CoreVirtualization
OMi	Cross Domain Operations Events	OMi
OM	Operations Events	OperationsManager
RUM	Real User Transaction Monitoring	RUM

付録 D – 制限事項

- SHR 9.10 から SHR 9.20 への BIAR のインポートの一部として BOE ユーザーのみがインポートされます。BOE グループはインポートされません。グループは、SHR 9.20 で手動で作成する必要があります。